



都議1期、市議4期の経験活かして 調布・狛江 市民とともに 都政を動かす

調布・狛江に保健所を
五輪は中止しコロナ収束に総力を

都議として

「子どもの医療費無料化」就学前まで実現

都議会で「生活か子どもの病院かと選択する親の気持ちわかりますか」と「子どもの医療費無料化」を求め(写真)、都民の運動と結んで就学前まで無料化を広げました。



市議として

シルバー相談室、ひとり親家庭の給付金実現

介護サービスの改善を求める声を市議会でとりあげ、多摩川住宅近くに「シルバー相談室」を実現(写真)。新型コロナ対策では市長への申し入れを重ね、ひとり親家庭への給付金などが実現しました。



●田中とも子のお約束

- 調布・狛江に保健所復活、PCR 検査抜本拡充
- 新型コロナワクチンの接種を安全、迅速に
- 都立病院・公社病院の独立行政法人化反対
- 中小業者への補償、非正規、学生への支援
- 小中学校の全学年で30人学級実現
- 子ども医療費無料化を高校生まで拡充
- 学童クラブの増設で待機児童の解消を
- 国民健康保険税(料)の負担軽減
- 介護保険料・利用料の引き下げ
- シルバーパスの負担軽減、補聴器購入補助を
- パートナーシップ制度、痴漢ゼロ、校則改革
- 強力な排水ポンプ、貯留施設整備など水害対策
- 避難所の増設と環境整備、災害弱者への支援
- 都市農業の振興、農地・緑地の保全
- 脱炭素、再生可能エネルギー利用促進

●田中とも子さんを推薦します



田中さんは、コロナ危機、台風被害、外環道一一直ちに現場に駆けつけ、耳を傾け、ともに声をあげてきた実行力の方です。必ず都議会へ送り出しましょう！

日本共産党参議院議員(調布在住) 山添拓



田中とも子さんを都議会に送り調布・狛江に保健所を取り戻しましょう！

三宅征子
戦争はいやだ 調布市民の会 事務局長



田中さんは、矢野市政を支える日本共産党市議団幹事長として、その大役をしっかりと果たし、身近な相談相手として住民の期待に応えてきました。都政での活躍に期待します。

元狛江市長 矢野ゆたか



田中さんとは人権を守るために前市長のセクハラ問題を共に追及してきました。人権、ジェンダー平等の実現、憲法を活かす都政をつくるため都議会でごんばってほしいです。

前社民党狛江市議 市原広子

ふたたび都政に

北多摩3区(調布・狛江)都議予定候補

田中とも子



日本共産党

私は、「新型コロナで勤めていた駅の売店を解雇された」「売り上げが減って本当に大変」「リモート授業ばかりで勉強に実が入らない。バイトも減った」など、本当に深刻な状況を伺ってきました。国も東京都も「自粛」を言うだけで、命と暮らしを守る対策があまりに貧弱です。

私は、コロナ禍の中、経済効率優先で、自己責任を押し付ける都政から、命と暮らし、営業を守る都政へ転換させるため、全力で頑張る決意です。どうぞよろしくお願いします。

《プロフィール》 1957年山形県生まれ。國學院大學卒。都議会議員(1期)。狛江市議会議員(4期)、2018年狛江市長選挙立候補。2020年都議補欠選挙立候補。市議会副議長、社会常任委員長、党幹事長など歴任。

日本共産党の躍進で政権交代、命を守る新しい政治を

コロナ・暮らしのご相談・ご意見は 日本共産党 田中とも子事務所 調布市布田 2-47-5

☎042-485-3161 fax042-480-0860 メール:jcpckf@room.ocn.ne.jp



2021年5・6月号外 日本共産党調布狛江府中地区委員会の見解を紹介します。

発行：東京民報社 港区芝 1-4-9 平和会館内(1965年11月12日 第三種郵便認可)

www2.jcp-tokyo.net/

t-tanaka





田中とも子

調布・狛江に保健所を いまこそ命守る都政を

市民の声が都を動かす。田中さんを都議会に送り保健所復活を



2277名の署名を都に提出し調布狛江への保健所設置を求める田中とも子都議予定候補と党市議団（2月5日、都議会）

コロナ対策では保健所が重要な役割を担っています。田中とも子さんは、自民・公明都政が廃止しようとした時、狛江保健相談所や調布保健所の存続充実運動にとりくみました。感染拡大のもとで「保健所に電話が繋がらない」「検査が受けられない」など切実な声が寄せられています。田中とも子さんは、住民とともに調布狛

江への保健所設置とPCR検査拡充を求める署名運動にとりくみ、住民の声を都に届け、今年度の都の予算で、多摩府中保健所への3名の保健師増員、今後の保健所のあり方を検討するための調査費計上を実現しました。



人口104万人の地域に
保健所が1カ所!!



陥没事故、2.3兆円の浪費 — 外環道工事は中止を



外環道の陥没事故で住民の声を聴く（2020年11月22日、調布市）

昨年10月、調布市で外環道工事の真上の住宅街の道路が陥没し（写真右）、その後も地下に大きな空洞3カ所が発見されました。住民から「国交省と事業者は地上には影響がないと言ってきたのに」と怒りの声が上がっています。田中とも子さんは住民の声を聴くとともに、被害への補償と安全対策、安心安全が保障されず

2.3兆円もの浪費となる外環道工事の中止を求めて奮闘しています。



田中さんに期待し応援します

東つつじが丘2丁目 滝上広水さん
外環道工事による調布の陥没事故以来、地元や被害住民の声に耳を傾け、事業者だけでなく都や国に対しても声を挙げてくれている行動力に敬意を表します。今後の活躍を期待し田中とも子さんを応援します。

差別や暴力の無い 誰もが自分らしく生きられる東京へ

女性の政治参加の促進、性暴力や性搾取の一掃、多様な性へ社会の理解、校則是正、子どもの権利など、立場の弱い人々の生活と人権を守るとりくみを進めます。



豪雨・地震災害対策の抜本的強化

— 昨年台風では調布・狛江で約650件の浸水被害が出ました。田中とも子さんは多摩川の土砂掘削、排水ポンプや貯留施設等への都補助の大幅引上げ等、国や都に求めてきました。住宅耐震化・不燃化への補助など地震対策の強化にも頑張ります。



多摩川の土砂掘削等を国に要求（2020年8月18日、参議院会館）

田中とも子の歩んだ道

雪国生まれ、三姉妹の末娘



山形県庄内地方の飽海郡松山町（現酒田市）の農家に生まれた田中さんは三姉妹の末娘。多い年には2桁も雪が積もる豪雪地帯で育ちました。両親は早朝から日暮れまで農作業。夜も家で藁縄（わらなわ）づくりと休む暇なく働き、冬になると毎年父親は出稼ぎに出ました。「働いても働いても農家の暮らしは楽にならない」と話す母親の姿を見て子ども心に社会の矛盾を感じながら育ちました。

「こんな差別があつていいの？」

中学時代はバレーボール部に所属した田中さん。スポーツも好きでしたが、図書館で借りた本を読むことも大好きでした。中学時代、被差別部落を題材にした小説「橋のない川」（住井すゑ）を読み、「同じ人間なのにこんな差別があつていいの？」と大きな衝撃を受けました。これが社会に目を向けるきっかけでした。

働きながら大学に。調布狛江地域から初めて日本共産党の都議に



大國魂神社の巫女として

高校卒業後、上京して大國魂神社（府中市）で巫女として働きながら大学夜間部に通いました。中学時代から関心があった「部落問題研究会」に所属。部落解放運動の先頭に日本共産党が立ってきたことを知り入党しました。卒業して民間企業で働いたあと、1997年の都議選に立候補し初当選。調布・狛江地域から初の日本共産党の都議として「子どもの医療費助成制度」の拡充や調布狛江の保健所の存続運動など奮闘しました。

多くの市民の要請に応え狛江市長選に立候補

2007年からは4期12年、狛江市議会議員として住民の声を市政に届け、シルバー相談室の開設など奮闘してきました。2019年7月、多くの市民の要請に応じて、ハラズメント一掃、だれもが安心して働き暮らすことができる狛江へ、市長選に立候補。いまコロナ禍のもと、命と暮らしを守る都政への転換めざし奮闘しています。

